

発行所
医療法人社団 折田 医院
内科・呼吸器科・循環器科
医師 折田 雄一
(呼吸器専門医)

〒523-0893
近江八幡市桜宮町121-1
TEL (0748) 33-3200
http://www.orita-clinic.com



折田 医院 月報

2019年3月1日 No.393

受付・診療時間のご案内

時間	診療日					
	月	火	水	木	金	土
午前8時30分 ～正午	○	○	○	×	○	○
午後5時 ～午後7時	×	×	×	×	○	×
休診日 木曜日・日曜日・祝祭日						

2013年 セレンゲティ草原にて



遙か昔の思い出になった。かねて私はサファリを訪ねることが楽しみであった。2011年8月15日に白浜のサファリを訪ねた。午後2時の暑さ真っ盛りで園内のライオンは横になり惰眠をむさぼっていた。これを見た途端に野生のライオンを見たい。それなら南アフリカだと思って年末の旅行計画をたてた。さすがに南アフリカは遠かった。しかしヨハネスブルグでは期待したサバンナではなく動物園であった。放たれたキリンやワニなどは見られたがライオンはいなかった。私は野生のライオンを見にきたのである。ヨハネスブルグを離れる朝にライオンが出ていると聞いてタクシーで出かけた。動物園の門をくぐると確かに入口にライオンはいた。寝そべっている。途端にこのライオンは飼われているのではないかと思った。私が見たいのは野生のライオンである。ヨハネスブルグでは野生の動物を見ることはできずに失望した。ただこの旅行で得たのは友人であった。鹿児島で医師会病院長を長く勤められたご夫妻とその娘さん(医学部講師)。更に東京で教育と情報でメディアに関わっておられるご夫妻と深い知り合いになったことだ。

この7人のヨハネスブルグのサファリについての不満が一致して、翌年はタンザニアのセレンゲティを訪ねようと衆議一決して上記の表題になった。

セレンゲティ草原はアフリカの中央に位置するタンザニアにある国立公園であるが、四国より広いから公園ではなく草原と呼びたい。

2013年正月に予定の通りタンザニアへ7人で向かった。セレンゲティの空港を出たらこの地は観光地ではないと感じた。空港を出た途端に広場があり、そこが青空市場になっている。

翌日から日本より一回り大きい南ア製の2台の無蓋のランクルで7人は広い草原を走りまわった。見渡すかぎりの草原の小高い丘の上から周囲を睥睨しているライオン、まさに野生のライオンだ。暫く見とれる。車が川辺に近づくと水浴びをしている巨大なゾウの群れ。遙か彼方を群れで走るヌーの大群。シマウマも近くで観察できる。母のゾウにぴったりと寄りそっている子ゾウの姿も頬笑ましい。湖畔では無数のフラミンゴが一本足で立っている。豹が道路脇の木の上で寝ている。またライオンの親子が倒した獲物を食べている。少し離れて鬣の立派なライオンがその様子を見守っている。そのありさまをしっかりと見せようと車を近づけすぎてスタックしてしまい脱出できない。まもなく草原では見かけなかった車が数台やってきてひっぱりだしたなどの懐かしい思い出が数多くある。

また朝早くバルーンで空中400メートルの高さまで上昇すると静寂な世界に驚き、草原が広く見渡される。バルーンを降りて、さてどこに行こうかと7人で相談して昨日のあの場所へもう一度行こうと300キロ彼方まで走る。実に自由で楽しい旅であった。帰国も楽しかった。遙か彼方の空港までは単発機で草原から飛びたつ。高度も低い。地上が見渡される。パイロットと並んでの飛行も楽しかった。この日は帰国するまでに双発機にも乗り5度の乗換であった。

この旅は観光での欧州めぐりよりも、本物の野生の多くの動物に会えて遙かに楽しい経験であった。その後、この友人達とは船旅や琵琶湖畔高島の桜などの旅を年に一、二度は繰り返した。しかし既に友人は亡くなり、また病に倒れた方もおられる。Ah! 時代は無情に過ぎていく。



